vinetur

ミケーレ・マンカ氏、2026年イタリア最優秀ソムリエに

ヴェネト州の教育者兼コンサルタントが、テイスティング、サービス、コミュニケーション力を問うフィレンツェの決勝を制した

2026年11月17日（火）



ヴェネト州出身のソムリエ、ミケーレ・マンカ氏が、イタリアソムリエ協会（AIS）の2026年イタリア最優秀ソムリエに選ばれ、フィレンツェで開かれた全国決勝でトレントドック賞を受賞した。

結果は11月15日、スタツィオーネ・レオポルダで開催された「Vitae in deguStazione」で発表された。同イベントでは、イタリアを代表するワインガイドの一つであるAISの「Vitae Guide 2027」

も披露された。ロヴィーゴ地区でAISヴェネトを代表するマンカ氏は、ワイン文化の普及と接客業界の人材育成に取り組んできたことが評価された。

決勝には3人が進出し、過去の優勝者、AIS関係者、ワインジャーナリスト、トレントドック・インスティテュートのメンバーで構成される審査員の前で競った。審査では、専門知識、テイスティング能力、コミュニケーション力、テーブルサービスが評価された。

マンカ氏は、レストラン業界を対象にコンサルティングを行う企業Sommeliteの共同創業者でもある。また、アドリアのホテル・ホスピタリティ学校で、レストランサービスと販売を教えている。AISによると、同氏は大手ホテルに加え、ヴェネツィア、イビサ、アブダビにあるチプリアーニやハリーズ・バー関連の店舗で経験を積んだ。

AISでは、テイスターや講座責任者、講師として活動し、英語で行うプログラムも担当している。2022年にはヴェネト州最優秀ソムリエの称号を獲得しており、今年の全国大会でも有力候補の一人と目されていた。

トレントドック・インスティテュートのステファノ・ファンブリ会長が賞を授与した。式典後に発表されたコメントで、ファンブリ会長は、ソムリエはワイン、その産地、そしてワインを選ぶ人々を結びつける重要な役割を担うと述べた。その役割はテイスティングやサービスにとどまらず、生産者の仕事を伝え、一般の人々がワインへの理解を深める手助けも含むという。また、2016年から続くトレントドック・インスティテュートとAISの連携は、イタリアワイン業界の研修と専門性を支える取り組みだと指摘した。

AISのサンドロ・カミッリ会長は、この称号はワイン文化に職業人生を捧げる人々にとって、最も重要な目標の一つだと述べた。大会では技術的な準備だけでなく、知識や伝統を一般の人々に伝える力も評価されるという。カミッリ会長は、この大会を、教育への投資、人材の評価、イタリアのワインサービスの水準向上というAISの幅広い使命の一環と位置づけた。

大会は準決勝と全国決勝の2段階で行われた。第1段階では、ブラインドテイスティング、ワインリストの訂正、料理とワインのペアリングの特定などを含む筆記試験が実施された。決勝進出者はその後、ブラインドテイスティングやペアリングに加え、サービスの実技試験を含む実践・理論課題に臨んだ。

決勝ではさらに、外国語の運用能力と人前で話す力も問われた。これらは、レストラン、教育、ワインの普及に携わるソムリエにとって、ますます重要なスキルとなっている。この大会形式は、技術的な正確さだけでなく幅広い対応力も測るもので、イタリアのホスピタリティ業界でワインの専門家に求められる役割の広がりを反映している。